

「名人・達人観光ガイドの会」ガイド紹介

①氏名 ②現役時代の仕事または今現在の仕事 ③出身地 ④現住所 ⑤趣味、特技 ⑥ガイドになったきっかけは？ ⑦今までガイドをして嬉しかったこと、良かったと思ったこと ⑧ガイドをする時にいつも心がけていること

- 1 ① ^{たむら ひろこ}田村 浩子 ②メーカーの商品開発
③目黒区 ④国立市 ⑤ルアー・フライフィッシング・登山・キャンプ・バイク・スキー ⑥東京都奥多摩サポートレンジャー会の仲間に誘って頂きました ⑦お客様の「今日は楽しかった～」の笑顔の一言とその後飲むビール ⑧お客様と共に楽しく安全に歩くこと
- 2 ① ^{すすき のりこ}鈴木 典子 ②公務員 ③中野区 ④立川市 ⑤山野を徘徊すること ⑥徘徊中に勧誘されました ⑦お客様に「ありがとう」と笑顔で言われたこと ⑧安全はすべてに優先する！
- 3 ① ^{やはぎ ゆうすけ}矢作 佑允 ②団体職員 ③神奈川県 ④奥多摩町 ⑤山歩き・畑仕事 ⑥奥多摩で働いていた時にガイドの会の存在を知り応募 ⑦奥多摩のファンが多くてびっくり ⑧先輩方の意見を尊重

雲取山のカラマツ

奥多摩を代表する山岳である雲取山。その山頂周辺から城山付近までは長大な防火帯が連なります。

この防火帯の周辺に植栽されている樹木はスギ・ヒノキなどがありますが、雲取山周辺はカラマツが中心です。雲取山など奥多摩エリアの標高の高い場所では、スギやヒノキは寒さであまり育たなかったそうです。

落葉針葉樹のカラマツは、秋になると黄葉します。朝日に当たったカラマツの黄葉は「黄金色に輝く」と表現できるほど美しいものです。

しかし6～7年ほど前から、黄色く色付く前に茶色く枯れてしまう事例が増えてきました。

昨年・今年は、美しい黄葉が戻りました。それは茶枯れが終息したのか、たまたま黄葉したのか、数年のスパンで見ないと様子は分かりません。毎年移り変わる季節も、全く同じにはならないようです。10年、20後も今年と同じような美しい黄葉を楽しめたらと願います。

ガイド 矢作 佑允

観光協会事務局より

～ 季節を振り返って～

2022年の秋は比較的天気恵まれました。紅葉は1週間ほど早く始まり、長持ちもしました。今年はケヤキの色付きが特に良く、黄色や赤に染まる紅葉を楽しむことができました。

しかし、登山においては、道迷いや日没後の行動不能による山岳救助活動などが複数発生しました。道迷いは登山アプリなどが進化しており、ほとんどの場合防ぐことができます。日没による行動不能についても、事前計画を立てるとともにヘッドランプ等の装備をきちんと備えることで防ぐことができます。そして登山計画書は必ず提出しましょう。

事前の情報収集をすれば、様々なことを安全・快適に楽しめます。観光情報は当協会に、登山の事は奥多摩ビジターセンターへ遠慮なくお問合せください。

主要な通行止め

- ・鳩ノ巣溪谷遊歩道（2023年1月まで）
- ・氷川溪谷 観光荘下（2023年2月末まで）
- ・海沢 ネジレノ滝～大滝（復旧未定）
- ・鷹ノ巣山 稲村岩尾根（復旧未定）

次号発行予定：2023年4月15日

発行 一般社団法人 奥多摩観光協会
住所 〒198-0212 奥多摩町氷川210
電話 0428-83-2152 FAX 0428-83-2789
編集 名人・達人観光ガイドの会

来さっせえ奥多摩のバックナンバー
をオンラインでご覧いただけます。

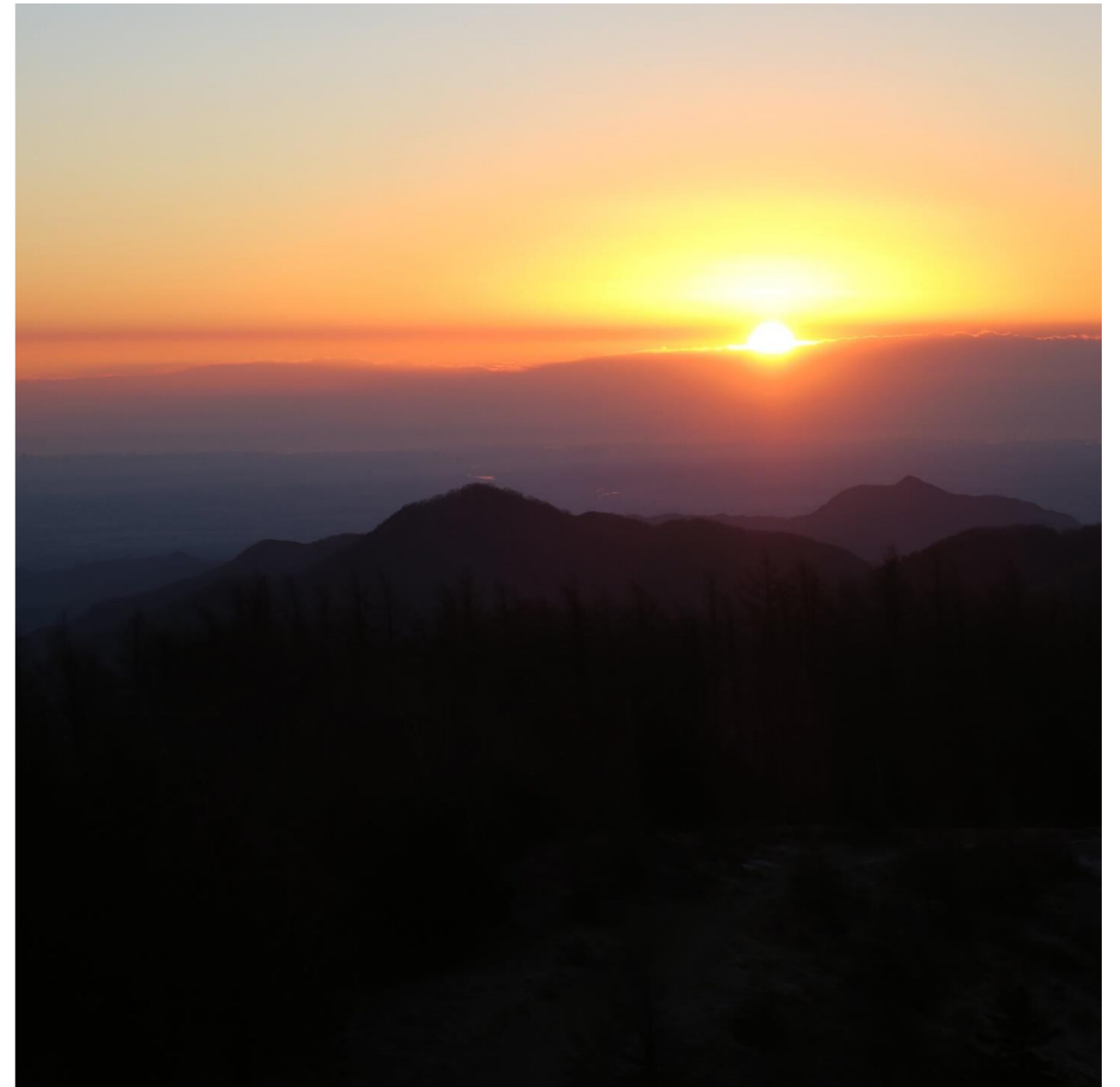


《第68号》

令和5(2023)年

1月15日発行

一般社団法人 奥多摩観光協会



2017.1.1

雲取山からのご来光

雲取山は東京都の唯一の2000m峰（2017m）、しかも唯一の日本百名山です。山頂付近は開けており、富士山・ハケ岳・南アルプス・東京都心方面が一望でき、奥多摩エリアでも有数の眺望を持っています。この写真の中央に写るのは鷹ノ巣山1736m、右奥は突起のある独特な山容で、遠くからでもよく目立つ大岳山1266mです。

雲取山は知名度が高く難度も低いと思われがちですが、鴨沢登山口からの標高差は約1500m、距離も12km以上もある体力レベルの高い山です。雲取山登山の際には、余裕を持った計画で臨みましょう。

行って来たあよ

10月31日(月)

No.23 鹿倉山 1288m 石尾根の好眺望

今回の歩き始めは小菅、当然集合も早い。私は蒲田を4時49分の始発で何とか集合時間に間に合う。

参加者は20名、ガイドさんは田村L他5名と贅沢な山行である。小菅までは増便された路線バスで移動し、小菅で本日の山行説明、班分け、準備体操をして、車道を歩き、まずは登山口を目指す。

コースは小菅～大丹波峠～鹿倉山～大寺山～陣屋まで約10キロを歩いた。

林道歩きが多かったが紅葉も見られ、歩きやすく高度を上げていく。鹿倉山山頂は眺望もないため石尾根が見えるところまで歩き、ここで昼ごはん。柵越しにガイドの斎藤さんから左から雲取山、セツ石山、千本つつじ、高丸山、日陰名栗山と説明を受ける。



石尾根を遠望

石尾根は5月の超健脚登山、鴨沢から雲取山～奥多摩駅まで歩いた尾根道。これを見られるとは感動もんでした。

今回はその時に一緒に歩いた人、ガイドさんもいてそれもまた、よかった。来年もまた行こう！（企画宜しくお願いします。）

鹿倉山からも紅葉の中を歩き、いつも遠くから見ていた仏舎利塔で小休憩し、終着の陣屋バス停を目指す。結構、急坂で大変だったが全員無事に下山。整理体操、反省会を行いバスを待つ。やっと来たバスに乗ろうとしたがなんと我々が乗る



紅葉が見頃

バスは深山橋バス停からであった。一停留所を歩き難なきを得、乗車でき無事に奥多摩駅に到着。鹿倉山山行は楽しい中、終わることができました。私は奥多摩駅近辺で軽く反省会を行い帰途につく。

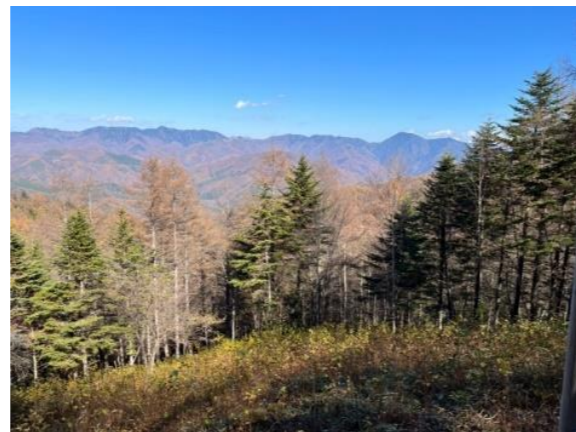
ガイドの皆さん楽しい山行ありがとうございました。参加した皆さん、お疲れ様でした。またお会いしましょう。

友の会会員 牛嶋 敏文

11月4日(金)

No.24 柳沢峠 1472m ブナの森

11月4日8時50分、総勢19名(ガイド3名)、奥多摩駅よりマイクロバスで出発。車窓より深緑色の奥多摩湖、赤、黄、オレンジに染まる山々にうっとり。途中、風が凪いで湖面に紅葉の木々が映り込む、「わぁ～きれい」思わず歓声が。柳沢峠に到着。まず、裾野までスッキリ見える富士山を写メに収め、2班に分かれ登山口へ。ブナ林は、晩秋の装い。逆光に透ける紅葉を見ながら、歩きやすい道をハイキング。楓の落ち葉を集めたり、ガイドさんに教えられたミズメの幹の匂いを嗅ぐとサロメチールの匂いがした。豊かだなあ、楽しいなあ。



笠ヶ岳から飛竜山を一望

標高が少し上がると、葉っぱは落ち、山は初冬を迎えている。よく晴れた青空に奥多摩の山々の稜線がくっきり。次に登る山はたくさんある！この景色を見ながらの昼食は格別。終わるのが惜しく「もっと歩きたいなあ」という感想。

ハイキングが終わっても、道の駅に立ち寄るといっておま

け付き。鹿肉コロッケ食べました。大満足、満腹のハイキングでした。

友の会会員 遠藤 久子



紅葉の中を歩く

季節のオススメのイベント

No.33 3月15日(水)開催

山里歩き「留浦」

奥多摩駅前を9時40分発のバスに乗り、峰谷橋で下車する。トイレを済ませ、馬頭トンネルを通過して小河内神社をめざす。

但し、11月の時点で落石のため小河内神社への道は通行止めでした。残念、行くことを見送る。

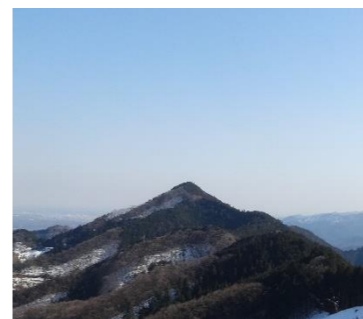
麦山浮橋を渡って山のふもとと村への道をたどる。最初の右折地点を過ぎて少し行くと右上に登る道が出て来た。イヨ山への登山道だ。そこを登ると奥多摩周遊道路へ出る。道を右折し三頭橋へ向かう。時期的に通行車両が少なく助かる。

40分位で三頭橋へ出る。橋の手前の川野駐車場にあったトイレは撤去されなくなっていた。陣屋裏の道を留浦に向かう。ここから先は初めて歩くルートとなる。進行右下にダムを水面を見ながら歩く。

あまり人が通っていないようで倒木、枯木が多い。落葉も多く踏み跡がはっきり見えない。涸れ沢を1本越え水の残る沢を渡る時は少なくて済む。足場が悪く滑りそうだ。30分程で留浦浮橋に到着する。

奥多摩の観光地として屈指の人気を持つ浮橋。この2つの浮き橋を両方歩くことができ、奥多摩湖を終日眺めることができる贅沢なコース。そろそろ春色に染まる西方の奥多摩湖の1日を楽しんでみてはいかがでしょう。

ガイド 杉浦 重明



日の出山山頂から残雪の麻生山を望む



ヤブツバキ

No.34 3月20日(月)開催 日の出山&つるつる温泉

『日の出山』に春を訪ねる

～陽光に誘われながらの低山歩き～

マスク生活3年間、遠ざかりつつある山登り、心機一転、春の低山歩きに挑戦してみよう。

青梅線古里駅や五日市線の終点からのアクセスも良く、秩父多摩甲斐国立公園東の玄関口にある日の出山は、天気さえ良ければこの時季ハイカーであふれています。春を待ちかねたハイカーは、あちこちの登山道から山頂を目指し、日溜りでは思い思いに昼食や昼寝を楽しんでいます。

今回は沢井駅～築瀬尾根～日の出山～つるつる温泉～武蔵五日市駅のルートを選んでみます。

今年3月18日からは青梅線のダイヤ改正により青梅～奥多摩間はワンマン運転となり、乗降にも注意が必要です。

駅前からはほぼ真南、多摩川の清流を見下ろす楓橋を渡り吉野街道から築瀬尾根に取り付きます。送電線の鉄塔を過ぎると南東側が開け、高峰山は指呼の間、更に尾根に沿って忠実に進むと龍の髭などを経て日の出山山頂に飛び出します。

天候に恵まれれば関東平野に浮かぶ筑波山や加波山・上越の山々、そして長沢背稜から奥多摩の名峰大岳山や丹沢山塊など、のんびりと満喫したいものです。遠く南西に見える富士山や、近く南東に聳える麻生山はぜひスマホにも収めたいものです。

山頂の日溜りには早咲きのスミシ、南面にある平成26(2014)年2月の豪雪にも耐えた我が国の固有種ヤブツバキなど。ゆっくりと昼食を取ったあとは、東に尾根道を下り、クロモ岩や顎掛け岩、そしてシュンランやフサザクラなどを愛でながら、小一時間でつるつる温泉。ひと風呂浴びて、武蔵五日市駅までは機関車バスで20分です。

日の出山の降雪は年に数回ですが1月下旬～3月上旬にかけて急速に発達する南岸低気圧が通過する際、里は雨でも山頂付近には積雪を見ることがあります。出発前に山頂のライブカメラで状況を確認しそれなりの装備を準備すると安全です。

ガイド 富士 光男